

子どもとの過ごし方考えよう

「こころ」を育むフォーラムに500人

各界の有識者が「日本人の心のあり方」について考える「こころを育む総合フォーラム」(座長＝山折哲雄・国際日本文化研究センター名誉教授)の四国大会が19日、高松市玉藻町のアルファあなぶきホールで開かれた。同フォーラムが全国で実施するキャラバンの第一弾で、山折座長や提唱者の遠山敦子・元文科相ら4人が登壇。約500人の参加者に心を豊かにする方法を説き、家庭での子どもとの過ごし方の重要性などを熱く語った。



心を豊かにする方法などについて意見を交わす山折座長(左から2人目)ら(高松市のアルファあなぶきホールで)

遠山元文科相ら4人登壇

山折座長は「子どもの笑顔は宝物ですー家庭に笑顔はありますか」と題して基調講演。小泉八雲の随筆や宮沢賢治の詩を紹介し、「笑いは悲しみの反対ではなく、悲しみの奥底に潜み、慰撫する役割を果たしている」と指摘。子どもを愛した江戸時代の僧・良寛を例に「このような人物が子どもと家庭、学校、地域を結びつける」と述べた。

続いて、山折座長と遠山元文科相、小柳晴生・元香川大教授、高松市教育支援センター適応指導教育室「虹の部屋」の植田昌史室長によるパネルディスカッションが行われ、山折座長

は「姿勢を直すことを、心持ちの根幹」と強調し、植田室長は「美しい気持ちと耐える力が大切だ」と訴えた。

また、家庭の役割について、山折座長は「親の背中が優しくないと、子どもに笑顔は浮かばない」との考えを披露し、小柳元教授は「子どもの悩みを親子が一緒に考える哲学の場にするべきだ」と呼びかけた。